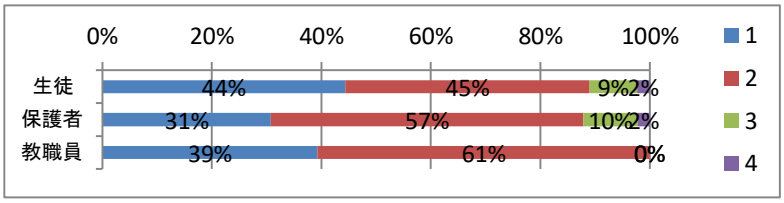
令和6年度　学校評価アンケート結果及び考察

とてもそう思う　B そう思う　C あまり思わない　D 全く思わな

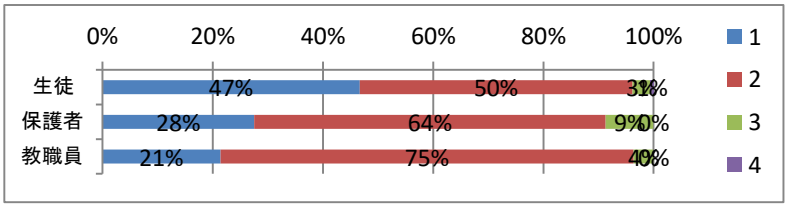
1 アンケート結果のまとめと考察

1	生徒	学校は楽しい。
	保護者	子供は楽しく学校生活を送っている。
	教職員	生徒は楽しく学校生活を送っている。



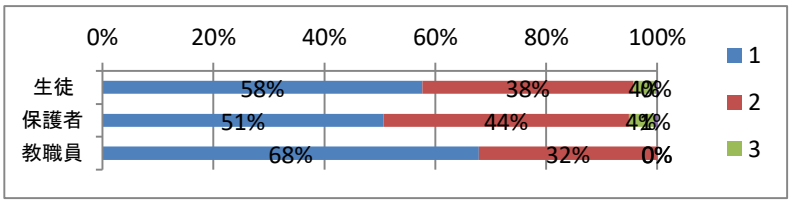
・生徒の89％が「よくあてはまる」「大体あてはまる」と答えており、学校行事は生徒にとって魅力あるものであることがわかる。保護者や教職員もほぼ良好な見方をしている。その中で、「よくあてはまる」と回答している教職員は39％とやや少ないが、生徒の自主的、意欲的な取組をさらに期待していることの表れではないだろうか。
　次年度は、生徒の創意・工夫が一層生かされ、生徒の意欲や達成感がより高められるような行事の企画・立案を期待したい。

2	生徒	「あいさつ」ができている。
	保護者	子供は「あいさつ」ができている。
	教職員	生徒は「あいさつ」ができている。



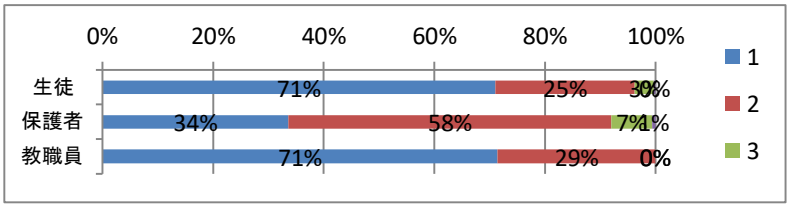
・生徒、保護者、教職員共に90％以上が肯定的な回答をしている。教職員の「よくあてはまる」の評価は低い。しかし、これは、現状に満足することなく、生徒たちに対して「いつでも、どこでも、誰にでも」気持ちの良いあいさつができるようになってほしいという期待の表れでもあると考えられる。

3	生徒	先生は「あいさつ」をよくしている。
	保護者	先生は「あいさつ」をよくしている。
	教職員	私は「あいさつ」をよくしている。



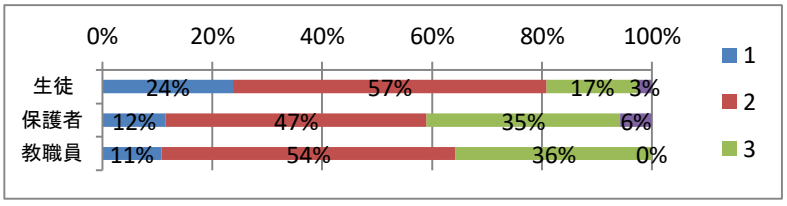
・生徒、保護者、教職員の90％以上がよくしていると答えている。教員は、「自分から進んであいさつをする」生徒像を望んでいる。次年度も引き続き、学校として「あいさつ」の全面展開を通して進んであいさつする生徒を育成したい。

4	生徒	感染対策中ではあるが体育祭や桑中祭など学校行事は充実している。
	保護者	感染対策中ではあるが体育祭や桑中祭など学校行事は充実している。
	教職員	感染対策中ではあるが体育祭や桑中祭など学校行事は充実している。



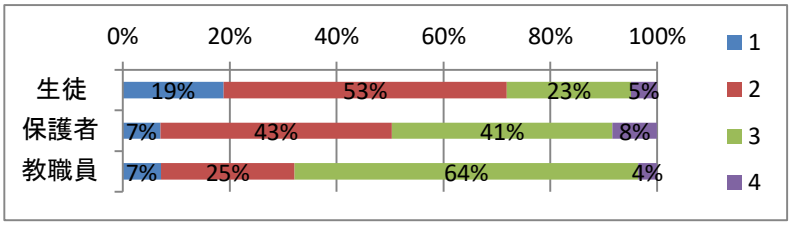
・生徒、保護者、教職員の肯定的な回答率は約90％以上。体育祭や大沼駅伝大会、体育館での学校行事が滞りなく開催されたことも影響していると考えられる。次年度も継続して、協力して活動できるよう、行事及び学校生活に臨ませていきたい。

5	生徒	授業の内容がよく分かる。
	保護者	子供は授業の内容について理解できている。
	教職員	子供は授業の内容について理解できている。



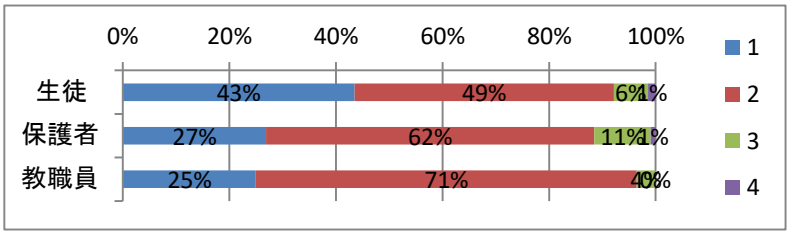
・生徒の傾向はほぼ同じであった。一方、保護者や教職員は同様な回答をしているが、「あまりあてはまらない」の否定的回答率を下げることが課題である。生徒が授業内容を理解し学力が身につくよう、教職員の授業改善と授業力アップを課題に捉える必要性がある。教材研究を深め魅力ある授業を展開して、否定的回答を減らす努力が必要である。

6	生徒	学習方法や家庭学習の仕方が分かる。
	保護者	子供は学習方法や家庭学習の仕方が分かっている。
	教職員	子供は学習方法や家庭学習の仕方が分かっている。



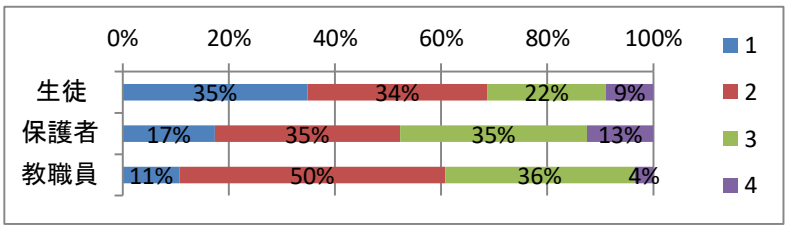
・「とてもそう思う」が、生徒は19%、保護者は7%、教職員は7%と低い回答である。次年度に向けて、家庭学習を定着させるために、「学校だより」など保護者向けのプリントに、家庭学習の方法を提示すれば、保護者も家庭で学習指導しやすいと考える。また、小中一貫教育の視点から、小学校の家庭学習への取組も把握し連携が必要である。

7	生徒	私は授業中先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している。
	保護者	子供は授業中先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している。
	教職員	生徒は授業中先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している。



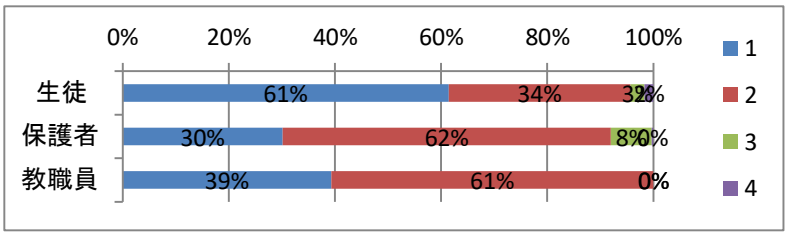
・生徒の肯定的な回答の割合は92%、保護者の傾向は前年度と大きくは変わらない。教職員の肯定的な回答の割合は昨年度とほぼ同じである。(昨年度比:－1%)保護者は家庭での生徒の姿をもとに回答しているので妥当な割合だと言える。次年度もさらに落ち着いて学習できるよう努力が必要である。

8	生徒	家で毎日家庭学習をしている。
	保護者	子供は毎日家庭学習をしている。
	教職員	生徒は毎日家庭学習をしている。



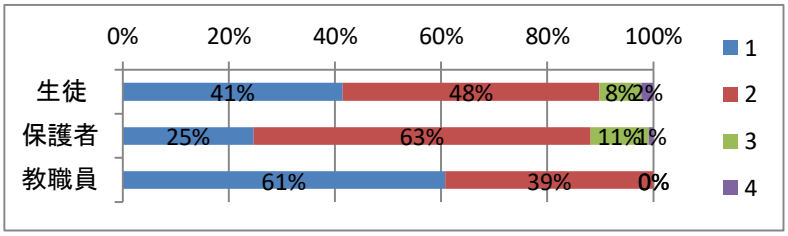
・「よくあてはまる」と回答した割合は生徒・保護者・教職員全てにおいて昨年度と変わらない傾向である。保護者は家庭での生徒の姿をもとに回答しているので妥当な割合だと言える。塾を含めた家庭学習の定着に向け継続指導を図っていく。教職員は、生徒の集団全体を見ているので、できていない生徒もいることから、塾を含めた家庭学習の定着に向け継続指導を図っていく必要がある。

9	生徒	クラスの友だちは優しく、いじめたりしない。
	保護者	子供はまわりの友だちから大切にされている。
	教職員	生徒はまわりの友だちから大切にされている。



・約95%の生徒が肯定的な回答をしている。保護者においては、肯定的な回答が92%であるが、引き続き、丁寧に個々への指導・支援をしていく。教職員の評価は100%の肯定的ではあるが、「よくあてはまる」の割合は昨年度に比べ、減少している(昨年度比－8%)。教員は指導者の立場で、より積極的に取り組む姿を求めている。教材研究を深め魅力ある授業を展開して、否定的回答を減らす努力が必要である。

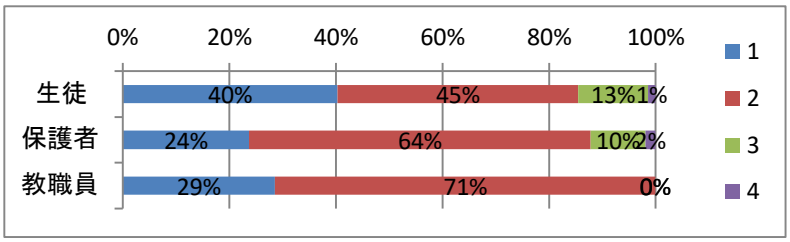
10	生徒	先生は自分のことをよく分かってくれている。
	保護者	子供は先生によく理解され公平に評価されている。
	教職員	生徒をよく理解し、公平に評価している。



・生徒と保護者の肯定的な回答をした割合は昨年度と大きく変わらない。「よくあてはまる」と回答した教職員の割合は昨年度に比べ、増加した(＋8%)。この結果は、子供達の思いを教師側がしっかりと受け入れようとしているとしている姿勢ともとれる。他の調査結果でも教員は生徒の思いを受け入れようと努め、また生徒は先生方が意見や気持ちを受け止めてくれていると感じている結果の表れであろうと思われる。次年度も、その姿勢を大切にしていきたい。

11

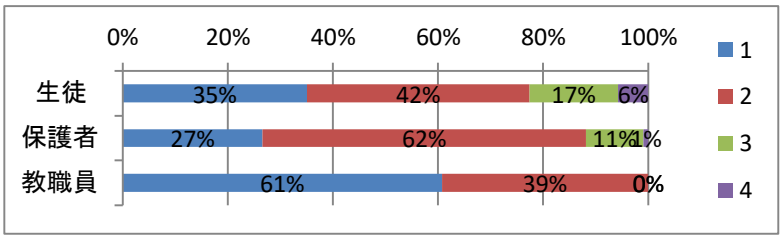
生徒	学校生活の中で自分の役割を果たし活躍できる場面がある。
保護者	子供は学校生活の中で自分の役割を果たし活躍できる場面がある。
教職員	生徒は学校生活の中で自分の役割を果たし活躍できる場面がある。



・生徒、保護者、教職員ともに約80%が、「着席チャイムや学習のきまりを守って学習に取り組んでいる」と、肯定的な回答である。しかし、「とてもそう思う」が生徒は40%に対して、教職員は29%と差がある。教職員が達成したい目標と、生徒の目標にはレベルの差があると考えられる。次年度は、より生徒の意識を高められる呼びかけを心がけていきたい。
　また、保護者は生徒の「忘れ物がないよう準備している」ことに関して肯定的な意見が8割以上であり良好な結果であった。忘れ物が多い生徒もいるので、さらに保護者の協力を求めていきたい。

12

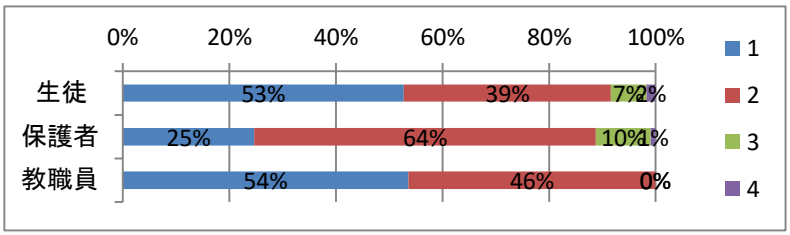
生徒	先生に相談しやすい。
保護者	学校は生徒や保護者の相談に積極的に応じている。
教職員	生徒の悩みや相談に親身になって応じようとしている。



・生徒、保護者、教職員ともに全体的な傾向は昨年度と変わらない。その中でも生徒と保護者においては「よくあてはまる」と回答した割合がそれぞれ微増した。(生徒＋4%、保護者＋1%)教職員も親身になって応じようと努めていることが分かる。

13

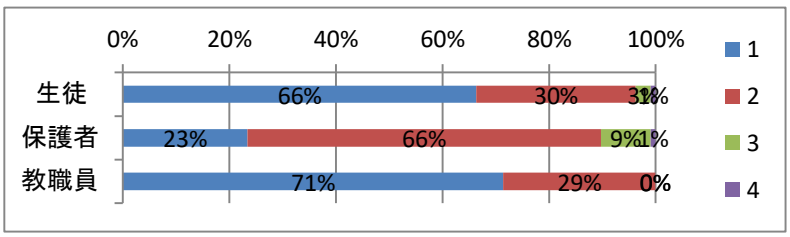
生徒	先生は生徒の誤った行為に対して適切な指導を行っている。
保護者	先生は生徒の誤った行為に対して適切な指導を行っている。
教職員	生徒の誤った行為に対して適切な指導を行っている。



・生徒、保護者の全体的な傾向は昨年度と大きく変わらない。教職員についても「よくあてはまる」と回答した割合は昨年度に比べて増加をした(昨年度比＋7%)。全体としては肯定的な回答となっている。

14

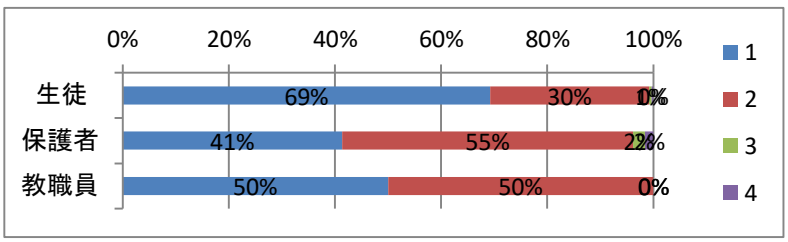
生徒	先生はいじめのない学校づくりに努力している。
保護者	先生はいじめのない学校づくりに努力している。
教職員	いじめのない学校づくりに努力している。



・生徒の96%、保護者の89%が肯定的な回答となっている。ただし、保護者においては約1割が否定的な回答となっていることがわかった。教職員は、未然防止、早期発見、早期対応という点において努力していることがわかる。

15

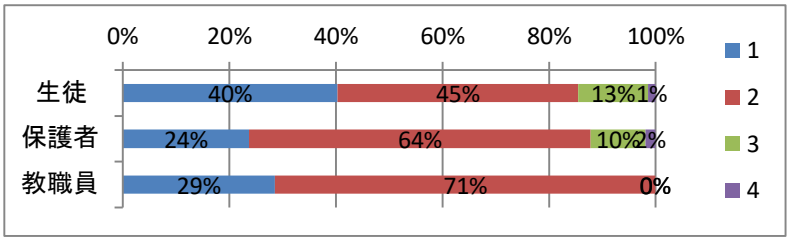
生徒	ルールを守って自転車通学している。
保護者	子供はルールを守って自転車通学している。
教職員	ルールを守って自転車通学できるよう適切な指導している。



・生徒の99%、保護者と教職員の約96%が「ルールを守って走行している」と回答している。引き続き並進や一時不停止などを守り、生徒の規範意識の維持向上と事故ゼロに努める。生徒の交通ルール遵守の意識をさらに高め、日々呼びかけていく必要がある。

16

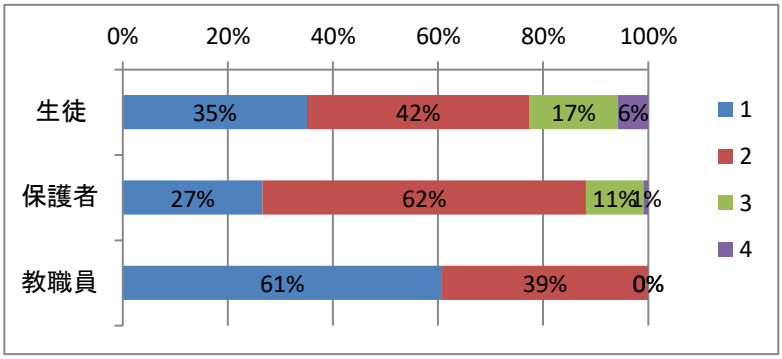
生徒	先生は台風・雷・不審事件等の時、登下校の安全に配慮している。
保護者	学校は台風・雷・不審事件等の時、登下校の安全に配慮している。
教職員	台風・雷・不審事件等の時、登下校の安全に配慮している。



・生徒、保護者、教職員ともに肯定的な回答の割合は高いが、意識を高く持って危機管理面の対応をしていく。

17

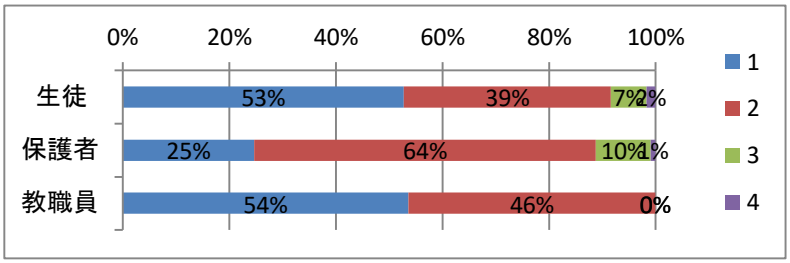
生徒	学校・学年・学級だよりやホームページ、授業参観などをとおして学校や友だちの様子がよく分かる。
保護者	学校・学年・学級だよりやホームページ、授業参観などをとおして学校や子供の様子がよく分かる。
教職員	学校・学年・学級だよりやホームページ、授業参観などをとおして学校や生徒の様子を家庭の方によく分かるように伝えている。



全体的な傾向は昨年度と同様で、保護者の肯定的な回答の割合が約90%で高い。学校としては個人情報の扱いに留意しながら、さらなる積極的な情報発信に努めていく必要がある。

18

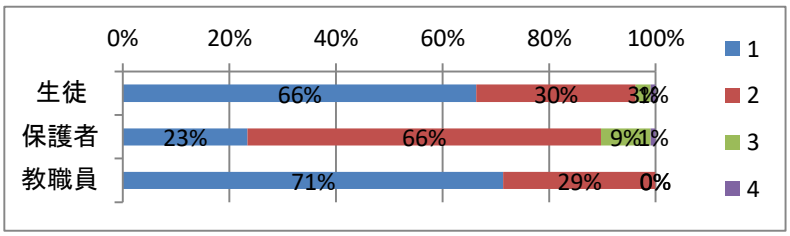
生徒	一生懸命清掃に取り組んでいる。
保護者	学校は清掃が行き届き、荷物や備品などの整理整頓がされ学習しやすい環境である。
教職員	学校は清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され学習しやすい環境である。



・約90%の生徒、職員が「自問清掃にしっかり取り組んでいる」と答えており、昨年と比較しても学校全体として自問清掃が定着してきたのではないかと考えられる。保護者の約90%は、生徒たちが机の整理・整頓に努めているということが分かり、生徒達の環境美化に対する意識も高いことが分かる。次年度は、自問清掃がより徹底して取り組めるように、さらに工夫して指導していきたい。また、教室内の環境美化にも意識を向けさせ、全クラスで共通の指導ができるようにしたい。

19

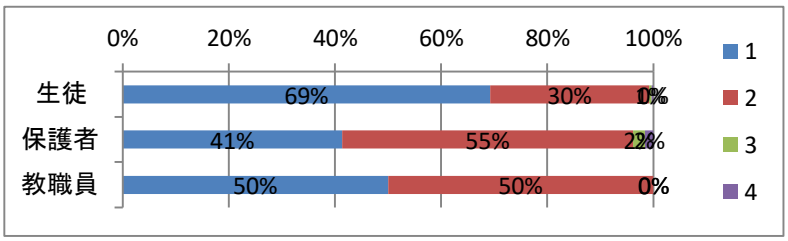
生徒	部活動は楽しい。
保護者	部活動をとおして子供の成長を感じる。
教職員	部活動が人間形成の一助となるよう指導している。



・96%の生徒が体力作りに励んでいると答えており、昼休み以外にも、体育の授業や部活動に励んでいることがわかる。教職員の29%は、不十分であると回答している、文化部の生徒や部活動(クラブ)に未加入の生徒への取組が課題であると考えている。
体育の授業や部活動を始め体を動かす機会が多くなるよう啓発をしていく。

20

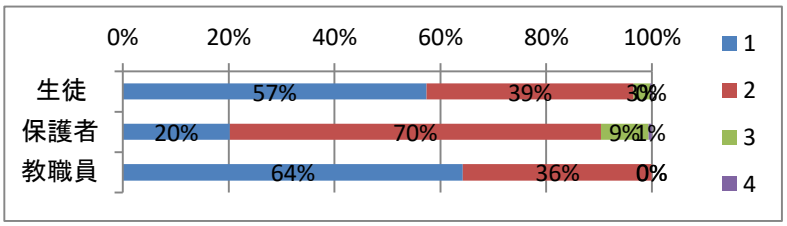
生徒	勉強と部活動の両立ができている。
保護者	子供は勉強と部活動の両立ができている。
教職員	生徒は勉強と部活動の両立ができている。



・7割の生徒と職員は部活動に積極的に取り組んでいるとしているが、3割の生徒は取り組めていない。次年度は、入部時の部活動選択期間の延長などの工夫をして、真剣に部活動を選択するよう勧めるとともに、部活動内での人間関係を顧問が把握し、教師主導型ではない、より主体的な取組を促す部活動経営が望まれる。

21

生徒	道徳の時間を大切にし真剣に考えている。
保護者	先生は道徳の時間を大切にし授業の工夫改善に努めている。
教職員	道徳の時間を大切にし授業の工夫改善に努めている。



・生徒、保護者、教職員共に昨年度とほぼ同じ傾向で、それぞれ肯定的な回答が約90％で増加している。生徒は真剣に授業を受けている。道徳の時間を軽視せず、道徳推進教師を中心に今後も学校全体として授業力向上に努めていきたい。令和6年度は、道徳拠点校として教職員の指導力の向上に繋がり、「よくあてはまる」の回答が生徒、教職員共に約60％、肯定的回答としては約96％を超えた。引き続き道徳的実践力が身につくよう研究を進める。

保護者の皆様から寄せられましたご意見・ご希望につきましては教職員で共有し、改善できるものは改善し、生徒にとってよりよい教育環境になるように努力していきますので、今後ともご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。